



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、福島市唯一の蔵元「金水晶酒造店」(松川町)の常務取締役の齋藤美幸さん(3代目社長の一人娘)にインタビューしました。

🐰 酒造りのきっかけは？

松川町が奥州街道の宿場町として栄えた時代、旅籠「燭屋」を営んでいました。明治時代に鉄道が開通したことで旅籠の需要が薄れ、酒造りを本業に。今では「大吟醸」が全国新酒鑑評会で8年連続金賞、「純米吟醸」が平成25年県春季鑑評会「夢の香」部門で、第一位にあたる県知事賞を受賞するなど、高品質な酒を造る酒屋になりました。

🐰 お店のモットーは？

「誠意と感謝の気持ちを持って福島市唯一の日本酒を造り、届ける」です。酒造りは、お米を作ってくださいる方、綺麗な水を守ってくださいる方、完成したお酒を飲んで

🐰 福島を離れていた美幸さん。戻られたきっかけは？

昔は市内にたくさんあった酒蔵も無くなり、今は金水晶のみ。日本酒は、その場に一本あるだけで「このお酒ができたのはこんなところだよ」と、地元を語るきっかけになると思います。明治から続けてきた金水晶を愛し、支えてくださる方や、福島市のためにも、地酒を絶やしてはならない。「私がやらねば」と決意し、昨年4月に福島市に戻ってきました。戻ってきてすぐにふくしまDCの試飲販売のイ

ベントで、多くの方から「おいしいね」「いつも飲んでるよ」と声を掛けていただき、一層その思いが強まりました。

🐰 4月からのアフターDCへの意気込みは？

DC特別企画「酒蔵巡りスタンプラリー」期間中(11月6日まで)に、酒蔵見学や、水・金曜日を「金水晶の日」として一杯100円で試飲ができるイベントを行います。

たくさんの方に福島市を知っていただくため、素晴らしさを語るツールとなるため、おいしい酒造りをしていきます！



有限会社 金水晶酒造店
齋藤美幸さん

くださる方など、たくさんの方にお世話になります。全ての人に誠意を持って感謝しながら、福島市を語るのにふさわしい酒造りを目指しています。

市長 コラム

「ふくしまレンガ物語(上)」

福島市長 小林 香



レンガ調の外壁に生まれ変わった福島駅東口駅前から東へ進みパセオ通りを過ぎると、私の好きな空間が始まります。銀行、証券会社などが立ち並び300メートル弱のオフィス街、通称「レンガ通り」です。名前の由来となったレンガ造りの歩道は、惜しまれながら取り壊されたレンガ造りの日本銀行福島支店旧店舗の歴史を今に伝えます。

同支店旧店舗は、東京駅を手掛けた辰野金吾博士により設計されたものです。博士は同時期に本市の「赤レンガの銀行」旧福島県農工銀行も手掛けました。これら当時を代表するレンガ景観が、「今残っていたら…」と思うのは私だけではないでしょう。



▲旧福島県農工銀行(大正2年築)

市長就任後、興味深い出会いがありました。きっかけは奥羽線の車窓から見かけたレンガ造りの神社らしき建物。調査により、市内下野寺地内の「山神神社」で、境内にある

由来記からこの地にレンガ工場があり、奥羽線開設のトンネル工事用レンガなどを製造していたことが分かりました。かなり古くからレンガとの深い関わりが本市にあると知り、私は胸が躍りました。



▲レンガ神社こと「山神神社」

市内では、松川駅・庭坂駅の油庫、渡利弁天山の配水池、荒井の海外渡航記念燈などが現存しています。レンガ工場が長年にわたり市内にあった歴史から推察すると、まだまだ知られていないレンガ建造物が埋もれている気がしてなりません。

私は、過去の歴史を見直し磨き上げることが、未来を拓く観光資源の創造につながると思います。地域に詳しい市民の皆さまから、身近なレンガ情報を市役所にお寄せいただけますようお願いいたします。

次回は、今、進める「レンガを生かしたまちづくり」をテーマに書きたいと思えます。